

平成26年度 第2期海域管理計画モニタリング評価シート

〈知床世界自然遺産地域科学委員会 海域ワーキンググループ〉

1. 評価項目

海ワシ類（鳥類）

2. 評価項目の位置付け

[総合評価]

総論	◇知床周辺海域の現状
	◇今後の方向性
	◇モニタリングについて
	◇その他

[横断評価]

地球温暖化を含む気候変動	○季節海氷の動態とその影響 ・海氷の接岸時期変動 ・水温の変動 ・季節海氷と海洋生態系
生態系と生物多様性	○生態系 ・海洋生態系と陸上生態系の相互作用 ○生物多様性 ・食物網、生物多様性、平均栄養レベル

[個別評価]

海洋環境と低次生産	海氷 水温・水質・加浮力・プランクトンなど
沿岸環境	有害物質
魚介類	サケ類 スケトウダラ
海棲哺乳類	トド アザラシ類
海鳥	海鳥類 海ワシ類
社会経済	資源環境、食料供給、産業経済、文化振興、地域社会

3. 評価項目に関わる調査・モニタリング表

モニタリング項目	主な内容	調査名称等
オジロワシ営巣地における繁殖の成否、及び巣立ち幼鳥数のモニタリング	つがい数、繁殖成功率、つがい当たり巣立ち幼鳥数の調査	オジロワシ繁殖モニタリング調査（オジロワシモニタリング調査グループ）
海ワシ類の越冬個体数調査	道路沿い、流氷上、河川沿いのワシ類の種数、成鳥・幼鳥別などを記録	・オオワシ・オジロワシ一斉調査（オジロワシ・オオワシ合同調査グループ） ・海ワシ類飛来状況調査巡視記録（環境省）
全道での海ワシ類の越冬個体数の調査	海ワシ類の越冬環境収容力調査	・オオワシ・オジロワシの渡来数調査（公益財団法人知床財団）

4. 保護管理等の考え方

各種調査や情報の収集を行い、種の保存法（国内希少野生動植物種）、鳥獣保護法、文化財保護法（天然記念物）等に基づく適切な保護管理を行う。

5. 評価

(1) 現状

○オジロワシ繁殖モニタリング調査
・2013年調査で大きく低下した繁殖成功率・生産力は、2011年までの水準に回復した。
○オオワシ・オジロワシ一斉調査
・知床におけるオオワシの個体数は243羽、オジロワシ個体数は228羽であった。
・調査総個体数に占める知床の割合は、オオワシは18%、オジロワシは23%であった。

(2) 評価

評価	<参考> H25 (2013)	オジロワシ繁殖成功率・生産力共に大きく低下し、評価基準である遺産登録時の数値を下回った。低下の主要な要因は抱卵期の悪天候にあったと考えられるが、他の要因が複合した可能性等も含めて次年度以降のモニタリング結果を注視して行く必要がある。越冬期のオオワシ・オジロワシの越冬個体数はほぼ横這いであるが、自然餌資源の回復など越冬環境の改善を図りながら、国内主要越冬地としての環境収容力の維持が必要である。
	H26 (2014)	

(3) 今後の方針

今後の 方針	<参考> H25 (2013)	オジロワシ繁殖状況調査では、繁殖成否確認率の向上を図るために調査密度をより高め、繁殖成績の変化と要因の解明を進める必要がある。オオワシ・オジロワシの越冬個体数は、現状調査の継続により、越冬個体数の年変動、越冬期間中の個体数変化や餌資源との関係を明らかにする必要がある。
	H26 (2014)	

6. モニタリングの概要

調査・モニタリング名	オジロワシ繁殖モニタリング調査
主な内容	オジロワシの繁殖状況に関する調査
対象地域	斜里町、羅臼町、標津町北部
頻度	通年
調査主体	オジロワシモニタリング調査グループ（知床財団、知床博物館、羅臼町、他）
調査結果概要	知床半島で繁殖する番数は2010年まで漸増していたが、2011年以降横ばい傾向にある。2013年調査で大きく低下した繁殖成功率・生産力は、2011年までの水準に回復した。このことから、2013年の繁殖成績悪化は抱卵期の荒天による一時的なものと考えられた。

表10-1 2014年オジロワシ繁殖モニタリング調査結果

調査年		推定生息	成功失敗	繁殖成功	繁殖失敗	繁殖成功率	巣立幼鳥数	生産力	成功つがい
		つがい数	確認 つがい数	つがい数	つがい数	(%)			生産力
2014年	斜里側	15	9	5	4	55.6	6	0.67	1.20
	羅臼側	17	8	7	1	87.5	8	1.00	1.14
	計	32	17	12	5	70.6	14	0.82	1.17

表10-2 2013年までのモニタリング調査結果

調査年		推定生息	成功失敗	繁殖成功	繁殖失敗	繁殖成功率	巣立幼鳥数	生産力	成功つがい
		つがい数 (調査対象 つがい数)	確認 つがい数	つがい数	つがい数	(%)			生産力
2013年	斜里側	14	7	2	5	28.6	2	0.29	1.00
	羅臼側	17	5	2	3	40.0	2	0.40	1.00
	計	31	12	4	8	33.3	4	0.33	1.00
2012年	斜里側	13	7	5	2	71.4	5	0.71	1.00
	羅臼側	19	6	3	3	50.0	4	0.67	1.33
	計	32	13	8	5	61.5	9	0.69	1.13
2011年	斜里側	12	7	5	2	71.4	7	1.00	1.40
	羅臼側	19	10	7	3	70.0	7	0.70	1.00
	計	31	17	12	5	70.6	14	0.82	1.17
2010年	斜里側	11	5	3	2	60.0	3	0.60	1.00
	羅臼側	17	6	5	1	83.3	7	1.17	1.40
	計	28	11	8	3	72.7	10	0.91	1.25
2009年	斜里側	11	7	5	2	71.4	6	0.86	1.20
	羅臼側	16	10	7	3	70.0	9	0.90	1.29
	計	27	17	12	5	70.6	15	0.88	1.25
2008年	斜里側	11	7	4	3	57.1	5	0.71	1.25
	羅臼側	15	6	6	0	100.0	6	1.00	1.00
	計	26	13	10	3	76.9	11	0.85	1.10
2007年	斜里側	11	7	5	2	71.4	6	0.86	1.20
	羅臼側	14	5	4	1	80.0	4	0.80	1.00
	計	25	12	9	3	75.0	10	0.83	1.11
2006年	斜里側	11	5	5	0	100.0	6	1.20	1.20
	羅臼側	12	3	2	1	66.7	3	1.00	1.50
	計	23	8	7	1	87.5	9	1.13	1.29
2005年	斜里側	11	7	4	3	57.1	4	0.57	1.00
	羅臼側	12	5	2	3	40.0	2	0.40	1.00
	計	23	12	6	6	50.0	6	0.50	1.00
2004年	斜里側	10	5	3	2	60.0	4	0.80	1.33
	羅臼側	11	6	3	3	50.0	4	0.67	1.33
	計	21	11	6	5	54.5	8	0.73	1.33

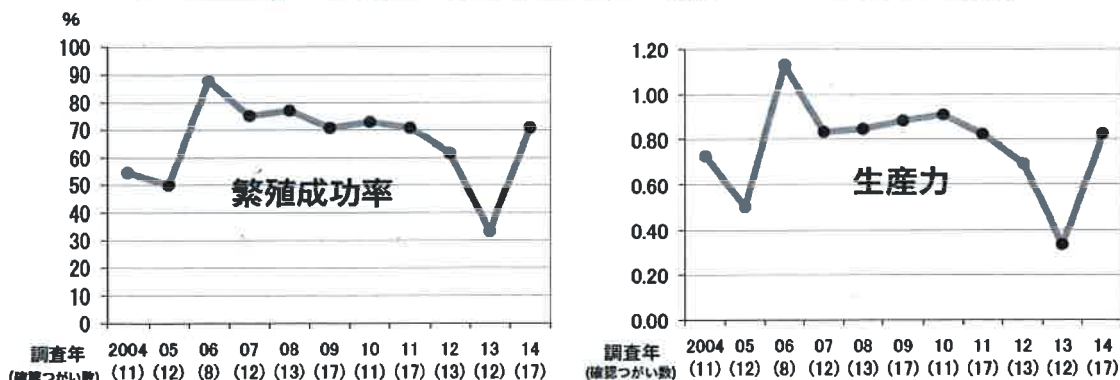


図10-1 繁殖成功率及び生産力の推移

表図出典：オジロワシモニタリング調査グループ

調査・モニタリング名	オオワシ・オジロワシ一斉調査
主な内容	北海道内の越冬地及び岩手県・宮城県等本州の越冬地において、オオワシ・オジロワシ個体数の一斉カウントを実施。
頻度	年1回、2月下旬に実施（2015年2月22日実施）
調査主体	オジロワシ・オオワシ合同調査グループ
調査結果概要	<ul style="list-style-type: none"> ・知床半島個体数は471羽（オオワシ243羽、オジロワシ228羽）。 ・北海道内個体数に占める知床半島個体数の割合は、オオワシ18%、オジロワシ23%、2種合計では20%となった。

表10-3 ワシ類個体数 2006-2015年結果

		種別	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
一斉調査 記録個体数		オオワシ	1703	1857	1454	1279	974	1492	936	1103	968	1326
		オジロワシ	774	900	711	784	651	943	973	810	777	1025
		ワシ類合計	2477	2757	2165	2063	1625	2435	1909	1913	1745	2351
内 訳	北海道 個体数	オオワシ	1,686	1,845	1,430	1,253	955	1,473	925	1,093	959	1,318
		オジロワシ	755	882	678	763	640	928	957	800	755	1,007
		ワシ類合計	2,441	2,727	2,108	2,016	1,595	2,401	1,882	1,893	1,714	2,325
知床 個体数	オオワシ	507	268	271	432	320	544	151	318	127	127	243
	オジロワシ	218	144	95	163	143	286	279	171	171	120	228
	ワシ類合計	725	412	366	595	463	830	430	489	247	471	

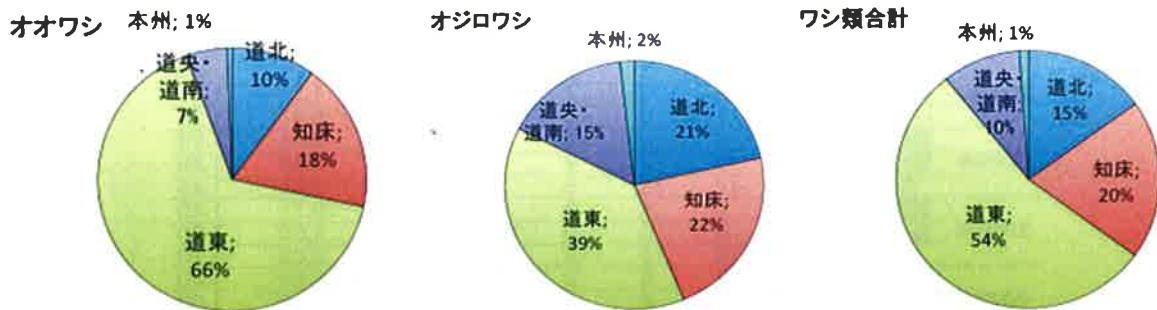


図10-2 ブロック別割合（2014年）

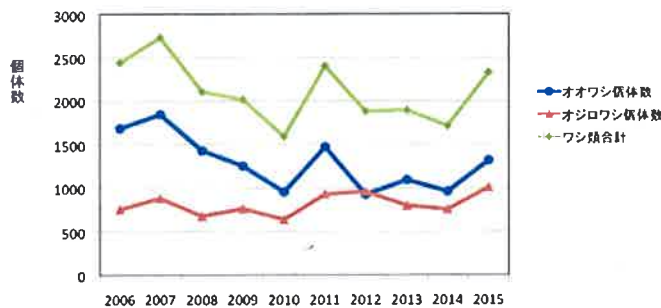


図10-3 2006～2015年の一斉調査結果

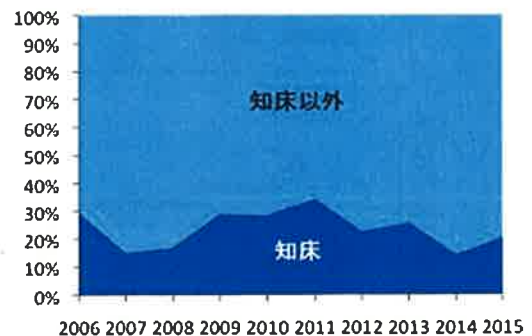


図10-4 2006年以降の知床が占める割合（オオワシ・オジロワシ合計の場合）

表図出典：オジロワシ・オオワシ合同調査グループ「オオワシ・オジロワシ一斉調査結果」

調査・モニタリング名	海ワシ類飛来状況調査巡視記録
調査主体	環境省
調査手法	11月から4月にかけて、斜里町側では知布泊～岩尾別の約28km、羅臼町側では湯ノ沢～羅臼川河口及び於尋麻布漁港～相泊漁港の約35kmのそれぞれの調査区間において、道路沿いや流水上、河川沿いのオオワシ・オジロワシの個体数を成鳥、幼鳥別に計数した。

○調査結果

◇斜里町側

表10-4 海ワシ類飛来状況調査巡視記録（斜里町側）

日付	オオワシ		オジロワシ		不明 海ワシ	計
	成鳥	幼鳥	成鳥	幼鳥		
'14/11/5	0	0	1	0	0	1
11/12	4	1	0	0	2	7
11/19	7	0	6	2	5	20
11/26	4	1	7	1	1	14
12/3	7	0	3	2	1	13
12/10	12	3	11	7	0	33
12/16	9	0	10	1	0	20
12/24	9	0	9	3	0	21
'15/1/7	8	3	10	4	1	26
1/14	17	3	17	2	1	40
1/21	35	1	10	5	4	55
1/28	35	4	13	1	15	68
2/4	149	14	39	10	15	227
2/12	15	5	8	2	2	32
2/18	92	1	11	4	16	124
2/25	174	11	27	8	26	246
3/4	14	4	9	5	0	32
3/11	47	13	27	9	5	101
3/17	17	5	18	3	0	43
3/25	0	0	1	0	0	1
4/1	1	0	5	0	1	7
4/8	0	0	2	0	0	2

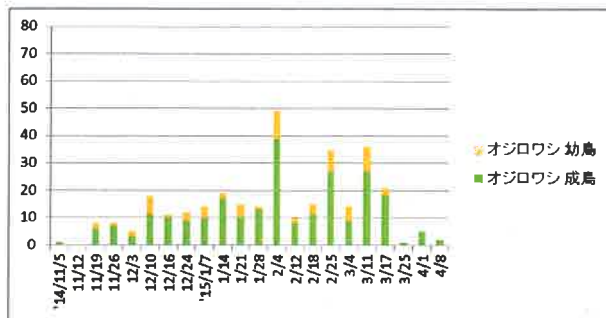
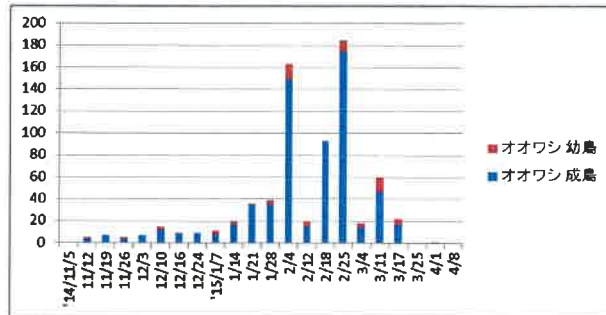


図10-5 海ワシ類飛来状況調査巡視記録（斜里町側）

◇羅臼町側

表10-5 海ワシ類飛来状況調査巡視記録（羅臼町側）

日付	オオワシ		オジロワシ		不明 海ワシ	計
	成鳥	幼鳥	成鳥	幼鳥		
'14/11/26	1	0	3	1	0	5
12/3	0	0	1	0	0	1
12/10	6	1	15	2	3	27
12/16	10	2	6	2	1	21
12/24	16	2	17	17	1	53
'15/1/7	14	1	22	0	0	37
1/14	18	0	17	8	1	44
1/21	13	0	24	6	0	43
1/28	20	2	33	4	1	60
2/4	27	1	18	1	1	48
2/12	122	6	88	9	3	228
2/18	23	0	35	3	1	62
2/25	22	8	14	5	4	53
3/4	40	0	12	2	0	54
3/11	23	6	11	4	1	45
3/17	16	2	16	5	0	39
3/25	8	2	11	3	0	24
4/1	0	0	4	0	0	4
4/9	0	0	4	1	2	7

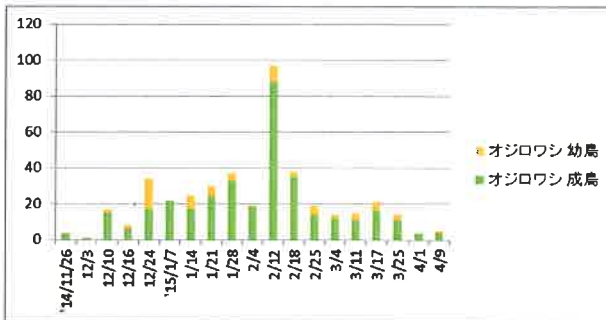
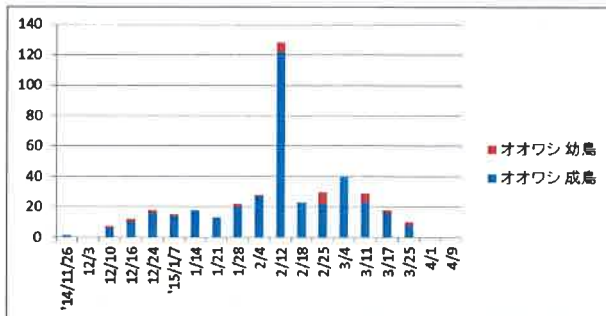


図10-6 海ワシ類飛来状況調査巡視記録（羅臼町側）

※ 成鳥/幼鳥の別が不明なものは成鳥としてカウント

出典：環境省「海ワシ類飛来状況調査巡視記録」

調査・イベント名	オオワシ・オジロワシ渡来数調査
主な内容	渡来個体数の調査
対象地域	羅臼町
頻度	12～4月
調査主体	公益財団法人知床財団
調査結果概要	オジロワシ・オオワシ合同調査グループの年1回の調査では把握しきれない越冬渡来数の状況を把握するために、羅臼町内の海岸線でカウント調査を行っている。知床財団の独自事業として行っており、成果の公表はされていないが、オジロワシ・オオワシの羅臼町への渡来数は、近年漸減から横ばいである。また、ワシ類にエサを与えている観光船が出港している際には、その付近にワシが集中して確認される状況が続いていることも分かっている。